

# 山口県立萩美術館・浦上記念館年報

平成26年度

ANNUAL REPORT  
2014  
HAGI URAGAMI MUSEUM

山口県立萩美術館・浦上記念館年報  
平成26年度

目 次

	頁
I 概 要	
1 施設概要 -----	1
2 事業概要 -----	1
II 事 業	
1 展覧会事業	
展覧会一覧 -----	2
(1) 特別展示 -----	3
(2) 小企画展示・特集展示 -----	7
(3) 普通展示 -----	8
(4) 特選鑑賞室展示 -----	13
(5) 和風展示室展示 -----	14
(6) 貸館展示 -----	15
2 教育普及事業	
(1) 記念講演会 -----	16
(2) やまぐち美術館力発信事業 -----	17
(3) 各種イベント -----	19
(4) ギャラリー・トーク -----	21
(5) 季刊誌「萩」 -----	22
(6) 博物館実習 -----	23
3 館蔵品貸出利用状況 -----	24
4 寄贈作品 -----	27
5 購入作品 -----	28
III 入 館 者 -----	29
IV 組 織 -----	29

## I 概要

### 山口県立萩美術館・浦上記念館の概要

山口県立萩美術館・浦上記念館は、萩市出身の実業家浦上敏朗氏が収集した浮世絵、東洋陶磁などの寄贈を契機に平成8年（1996年）10月に開館した。

また、平成22年（2010年）9月には、本県の文化資源であり400年の歴史を誇る「萩焼」をはじめとする陶芸の振興を目的に「陶芸館」を開館し、「浮世絵」、「東洋陶磁」、「陶芸」の3つのジャンルを中心とした美術館活動を行っている。

浮世絵版画類約5,300件、東洋陶磁器類約560件、陶芸作品約590件を所蔵(平成27年3月現在)

#### 1 施設概要

(1)所在地 山口県萩市平安古町586-1

#### (2)所管及び管理

設置主体 山口県総合企画部スポーツ・文化局文化振興課

管理運営 指定管理者 サントリーパブリシティサービス(株)

#### (3)規模及び建物概要

区分	本館	陶芸館
建物構造	RC造 B1/2F	SRC, RC造 B1/2F
敷地面積	11,747.5㎡	2,515.0㎡
建築面積	3,194.1㎡	1,450.1㎡
延床面積	5,177.8㎡	2,417.9㎡
展示室面積	1,066.6㎡	803.8㎡
工期	H 6.10.21~H 8.3.27	H20.10.14~H22.3.23
開館	H 8.10.14	H22.9.11
設計・監理	丹下健三・都市・建築設計研究所	金子信建築事務所

#### 2 事業概要

・本館は、山口県の北浦地域において、新しい地域文化振興の発信拠点にふさわしい、浮世絵と東洋陶磁、陶芸を核とした高い専門性と機能を有する特色ある美術館として多様な活動を展開する。

・展示活動としては、県民の多様なニーズに応えるため、浮世絵と東洋陶磁、陶芸の常設展を軸に、関連のある企画展(特別展示)を年間数回開催する。

・普及教育活動としては、特別展示に関連する「講演会」の開催や主に児童を対象としたワークショップ、美術館まちなかアート事業(平成22年度からは指定管理者に業務委託)などを積極的に行う。

・さらに、調査収集事業も継続的に実施し、有効活用を図る。

## II 事業

### 1 展覧会事業

〔一覧〕

展覧会の種類	展 覧 会 名
特別展示	生誕130年 川瀬巴水展－郷愁の日本風景－
	やきものって何ダ？－陶芸美術館8館の名品に学ぶ－
	上方の浮世絵－大坂・京都の粋と技－
	泥象 鈴木治の世界－〈使う陶〉から〈観る陶〉、そして〈詠む陶〉へ
普通展示 (浮世絵)	諸国名所風景画
	五十三次の世界
	美人画の大首絵
	妖怪絵
	後期浮世絵の美人画
	武者絵
	尾形月耕の美人画
	江戸の一年
	明治絵－文明開化の世界
	月岡芳年－新形三十六怪撰
普通展示 (東洋陶磁)	緑釉陶器の歴史
	かたどられた人、動物、生活
	めでたいかたち－吉祥文－
	染付
普通展示 (陶芸)	オブジェ－陶造形の潜勢力Ⅱ
	卑弥呼と愛 十二代三輪休雪の世界
	素材のかたち
	萩焼の花器
	未来派の「縄文」茶陶－染野夫妻陶芸コレクション－
	萩焼の現代
特選鑑賞室	歌川広重 名所江戸百景 堀切の花菖蒲
	歌川広重 名所江戸百景 駒形堂吾孀橋
	歌川広重 名所江戸百景 亀戸天神境内
	二代歌川広重 名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい
	歌川広重 名所江戸百景 両国花火
	歌川広重 名所江戸百景 猿わか町よるの景
	歌川広重 名所江戸百景 よし原日本堤
	歌川広重 名所江戸百景 浅草田甫西の町詣
	歌川広重 名所江戸百景 深川洲崎十万坪
	歌川広重 名所江戸百景 日本橋雪晴
	歌川広重 名所江戸百景 廊中東雲
	歌川広重 名所江戸百景 隅田川水神の森真崎
和風展示室	宮永愛子の茶室「そらみみみそら－五月雨御殿－」
貸館展示	第37回山口伝統工芸展

## Ⅱ > 1 > (1) 特別展示

### 生誕 130年 川瀬巴水展 一郷愁の日本風景

大正から昭和にかけて活躍した風景版画家、川瀬巴水（1883－1957）の生誕 130 年を記念する大回顧展。日本全国を旅してスケッチした四季折々の自然美と人々の穏やかな暮らしを、伝統的な技法である木版画にうつした巴水は、「旅情詩人」、「昭和の広重」と称えられます。巴水が描いた懐かしい日本の原風景をお楽しみください。

主催 川瀬巴水展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY 山口放送)、NHK サービスセンター  
後援 山口県教育委員会、萩市

会期 4月26日(土)～6月8日(日) 40日間  
会場 本館2階第6,5,4,3展示室  
出品点数 283点  
観覧者数 9,504人



#### 関連行事

##### ○記念講演会①「川瀬巴水-旅と仕事」

日時 4月26日(土)14:00～15:30

場所 講座室

講師 西山純子氏(千葉市美術館 学芸員)

##### ○記念講演会②「渡邊版画店と川瀬巴水」

日時 5月3日(土)13:30～15:00

場所 講座室

講師 渡邊章一郎氏(渡邊木版美術画舗 代表取締役、国際浮世絵学会 常任理事)

##### ○版画の摺り実演

日時 5月4日(日)10:00～12:00、13:30～15:30

場所 エントランスホール

摺師 渡辺英次氏(渡邊木版美術画舗 摺師)

解説 渡邊章一郎氏(渡邊木版美術画舗 代表取締役、国際浮世絵学会 常任理事)

##### ○こどもの日イベント なつかしい遊びだよ。全員集合！

日時 5月5日(月・祝)14:00～16:00

場所 エントランスホール

##### ○ギャラリーツアー(学芸員による展示解説)

日時 毎週日曜日 11:00～12:00

## やきものって何ダ？ —陶芸美術館8館の名品に学ぶ—

日本各地にはやきものの産地が点在します。その産地にある公立美術館・博物館が連携する「陶磁ネットワーク会議」加盟館が各館自慢の逸品をご紹介します。やきものがどのように作られ、使われたのか、やきもので何を表現したのかなど、日本各地のやきもの美術館を旅した気分になりつつ、やきものの「A to Z」を知っちゃおう！

主催 やきものって何ダ萩展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)

企画協力 陶磁ネットワーク会議(愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、福井県陶芸館、山口県立萩美術館・浦上記念館)

後援 山口県教育委員会、萩市

特別協力 エフエム山口

会期 7月5日(土)～8月24日(日) 45日間

会場 本館2階第6,5,4,3展示室

出品点数 132点

観覧者数 4,941人



### 関連行事

○記念講演会「喫茶を楽しむ - 抹茶と煎茶のやきもの - 」

日時 7月19日(土) 13:30～15:00

場所 講座室

講師 梶山博史氏(兵庫陶芸美術館 学芸員)

○萩茶碗で楽しむ呈茶席(表千家萩地区青年部)

日時 7月5日(土)、6日(日) 10:00～15:00

場所 本館スロープ下

○ギャラリーツアー(学芸員による展示解説)

日時 毎週日曜日 11:00～12:00

## 上方の浮世絵 一大坂・京都の粋と技一

江戸だけでなく、上方にも浮世絵があったんです---。大坂・京都で版行された上方浮世絵は、海外では Osaka Prints などと呼ばれ評価されている一方で、日本国内ではほとんど知られていないのが現状です。容姿を美化せずありのままに描いた役者絵など、ひとクセある上方浮世絵が40年ぶりに大集合します。

主催 上方の浮世絵展萩実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館  
読売新聞社、KRY 山口放送)、NHK プラネット中国

後援 山口県教育委員会、萩市

協賛 ニューカラー写真印刷株式会社

会期 9月9日(火)~10月13日(月・祝) 33日間

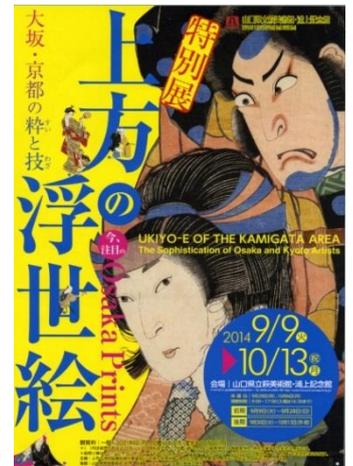
前期 9月9日(火)~9月28日(日)

後期 9月30日(火)~10月13日(月・祝)

会場 本館2階第6,5,4,3展示室

出品点数 212件

観覧者数 5,728人



### 関連行事

○記念講演会「眠りから覚めた上方浮世絵」

日時 9月14日(日) 13:30~15:00

場所 講座室

講師 北川博子氏 (本展監修者、阪急文化財団)

○落語寄席~上方落語・絵画の世界~

日時 10月4日(土) 13:30~14:30

場所 講座室

出演 林家染雀氏

○月夜のナイトミュージアム

担当学芸員の解説を聞きながら鑑賞する、ナイトギャラリーツアー

日時 10月10日(金)~12日(日) 各回 18:30~20:00

○ギャラリーツアー (学芸員による展示解説)

日時 毎週日曜日 11:00~12:00

## 泥象 鈴木治の世界 ―〈使う陶〉から〈観る陶〉、そして〈詠む陶〉へ―

鈴木治(1926-2001)は、戦後の日本陶芸を代表する作家の一人です。用途を持たない純粋な立体造形としての陶芸を求めて「泥象」をつくり続けました。没後初めての大規模な回顧展となる本展では、晩年の未発表作品を含む約 150 点で、作家が到った「〈使う陶〉から〈観る陶〉へ、〈観る陶〉から〈詠む陶〉へ」の足跡をたどります。

主催 鈴木治展実行委員会（山口県立萩美術館・浦上記念館、毎日新聞社、  
tvs テレビ山口）、日本経済新聞社

後援 山口県教育委員会、萩市

協賛 野崎印刷紙業株式会社

特別協力 エフエム山口

会期 11月1日(土)～12月23日(火・祝) 48日間

会場 本館 2階第 6,5,4,3 展示室

出品点数 154点

観覧者数 2,612人



### 関連行事

#### ○記念講演会①「鈴木治の陶芸」

日時 11月1日(土) 14:00～15:30

場所 講座室

講師 中尾優衣氏（京都国立近代美術館 研究員）

#### ○記念講演会②「先生を偲び、いま思うこと」

講師 十四代今泉今右衛門氏（陶芸家、重要無形文化財「色絵磁器」の保持者〈人間国宝〉）

場所 講座室

日時 11月15日(土) 14:00～15:30

#### ○ミュージアム・カンパニー

25歳以上の未婚者を対象とした、チャットスタイルの特別鑑賞会です。

司会 さいみゆき氏（フリーアナウンサー）

解説 石崎泰之（当館学芸専門監兼学芸課長）

日時 11月14日(金) 18:30～20:00

#### ○ミュージアム・コンサート「愛と自然を歌う」

日時 11月1日(土) 17:00～18:30

出演 有富美子氏（声楽家）

会場 本館 喫茶hana

#### ○ギャラリーツアー（学芸員による展示解説）

日時 毎週日曜日（ただし、11月9日を除く） 11:00～12:00

## Ⅱ > 1 > (2) 小企画展示・特集展示

### 小企画展示 新春企画 収蔵版画展

浦上敏朗名誉館長はじめ大谷葉子様、染野夫妻ご遺族からの寄贈作品を中心に、当館が収蔵する近代、現代の版画をご紹介します。

近代版画では、明治前期に西洋から日本に本格的な印刷技術が導入された黎明期の銅版、石版の代表的な作品、そしてほぼ同時期のヨーロッパで流行したジャポニスムの影響が色濃く認められるアンリ・リヴィエール、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックのリトグラフなどを展示します。

このほか長谷川潔、浜口陽三のメゾチント、大沢昌助のエッチング、森義利の合羽摺、小田まゆみのシルクスクリーンなど多彩な版画技法と個性豊かな版表現をお楽しみください。

会期 平成27年(2015)1月2日(金)～1月25日(日)

会場 本館2階第3, 4展示室

出品点数 51点

新春企画

展示室3,4

収蔵版画展

展示期間 平成27年1月2日(金)～1月25日(日)



エドモンド・ド・トゥールーズ＝ロートレック 第一等勲章二重丸大正天皇賞

浦上敏朗名誉館長はじめ大谷葉子様、染野夫妻ご遺族からの寄贈作品を中心に、当館が収蔵する近代、現代の版画をご紹介します。

近代版画では、明治前期に西洋から日本に本格的な印刷技術が導入された黎明期の銅版、石版の代表的な作品、そしてほぼ同時期のヨーロッパで流行したジャポニスムの影響が色濃く認められるアンリ・リヴィエール、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックのリトグラフなどを展示します。

このほか長谷川潔、浜口陽三のメゾチント、大沢昌助のエッチング、森義利の合羽摺、小田まゆみのシルクスクリーンなど多彩な版画技法と個性豊かな版表現をお楽しみください。

## II > 1 > (3) 普通展示 浮世絵

### 諸国名所風景画

展示期間 平成26年(2014)4月15日(火)～5月18日(日) 展示室 1

歌川広重の活躍で、名所風景画は江戸だけでなく、京都や大坂、さらには日本全国の名所が描かれるようになりました。こうした諸国名所風景画の多くは、先行する版本挿絵の影響や絵師の創意工夫がみられ、庶民の諸国名所への関心を満たしました。本展では、「六十余州名所図会」を中心に、「本朝名所」「京都名所之内」「浪花名所図会」など、歌川広重が描いた諸国名所の風景画をご覧ください。



### 五十三次の世界

展示期間 平成26年(2014)5月20日(火)～6月22日(日) 展示室 1

保永堂版「東海道五十三次之内」は、東海道の宿場を描いた全55枚の揃物で、歌川広重の出世作となりました。背景には東海道や旅への関心の高まりがあり、浮世絵版画のなかで風景画のジャンルが確立されたことにありました。広重につづき、他の絵師たちも東海道の作品を描き、広重もまた20数種の東海道を描いています。今回は広重の作品を中心に、他の絵師の作品も交えながら、さまざまな東海道の風景を紹介します。



### 美人画の大首絵

展示期間 平成26年(2014)7月5日(土)～8月3日(日) 展示室 1

寛政期(1789～1800)に入って、美人画に大首絵の作品が登場します。大首絵は人物を七分身や半身で描いたり、顔だけを大きく描いたりする表現様式で、役者絵から応用されたものです。喜多川歌麿はこの様式を用いて人気絵師となり、一世を風靡しました。以後、大首絵は美人画の中心的な表現様式となり、多くの浮世絵師に描かれていきます。今回は歌麿の時代から明治時代までの作品を紹介します。



### 妖怪絵

展示期間 平成26年(2014)8月5日(火)～9月7日(日) 展示室 1

亡くなった人がこの世への執着から化けて出るのが幽霊、人知を超えた化け物が妖怪。幽霊や妖怪、人に化ける狐や狸などを描いた浮世絵を妖怪絵と呼びます。伝説や昔話に取材した作品では、英雄と闘い、退治されるおどろおどろしい妖怪が描かれています。また、江戸時代の怪談物の芝居から取材した作品では、かっこよく見栄を切る役者を取りまく気色悪い幽霊が、実とはぼけたユーモアで描かれていたりして愉快です。日本の夏の風物詩、幽霊と妖怪の世界をお楽しみください。



### 後期浮世絵の美人画

展示期間 平成26年(2014)9月9日(火)～10月5日(日) 展示室 1

文化期(1804～1817)から幕末に至る時期は、江戸時代後期と考えられています。

浮世絵では、風景画と花鳥画が新たな主題としてこの期に確立されました。また末期的な社会状況を反映し、華美な色彩、誇張や歪曲が目立つ描写、高度な彫りと摺りの技術など、爛熟の色合いが濃厚な表現になっていきます。団扇絵の大流行に象徴されるように、日用の絵画的なものに浮世絵が浸透した時代でもありました。

今回は江戸時代後期の美人画をご紹介します。



## 武者絵

展示期間 平成26年(2014)10月7日(火)～11月9日(日) 展示室1

江戸時代、歴史上の武者や豪傑たちは、読本や歌舞伎に脚色され人気を博しました。浮世絵では、文学に登場する想像上の英雄なども含めて絵画化され、武者絵としてのひとつのジャンルを形成するほど多数制作されました。今回の展示では、「牛若丸と弁慶」「南総里見八犬伝」「西遊記」「三国志」「水滸伝」「大内義隆」「毛利元就」などのコーナーを設け、江戸時代末期に武者絵で大成功を収めた歌川国芳と、明治期にその流れを汲んだ月岡芳年の作品を中心に、武者絵の世界を紹介します。



## 尾形月耕の美人画

展示期間 平成26年(2014)11月11日(火)～12月14日(日) 展示室1

尾形月耕は浮世絵の流派と異なり独学で絵を修得し、挿絵画家として人気を博した絵師です。新聞や洋装本の挿絵、錦絵や肉筆画などに美人画や明治の諸相を描き、明治から大正にかけて活躍しました。

今回は、月耕の作品から「美人花競」「婦人風俗尽」「花美人名所合」「美人名所合」など代表的なシリーズを中心に、明治の人々を魅了した月耕の美人画を紹介します。



## 江戸の一年

展示期間 平成26年(2014)12月16日(火)～平成27年(2015)1月25日(日) 展示室1

江戸の人々は、現代の私たちとくらべて、より自然に親しむ暮らしを営んでいました。五節句や祭礼など、年中行事が生活と溶け込んでおり、四季おりおりには、花見や夕涼みといった物見遊山を楽しんでいました。このような江戸の人々の、季節にそくした生活習慣を感じられるものが、浮世絵には多く描かれています。今回の展示は、春夏秋冬の四季にあわせて、江戸の一年を紹介します。



## 明治絵—文明開化の世界

展示期間 平成27年(2015)2月3日(火)～3月8日(日) 展示室1

黒船の来航に始まり、開国そして明治政府の誕生と、幕末・明治期の政治的な動乱を経て、日本は積極的な西洋文明の吸収に向かいます。鉄道、馬車、洋風建築、議会、産業博覧会など、新奇な事物に明治の人々は目を見張りました。写真や銅版画の普及が遅れていた当時、日本が西洋化していく様相を記録し、後の我々に残してくれたのが、江戸時代から技術が確立していた浮世絵版画でした。歴史資料として価値の高い、これらの明治の開化絵により、近代化する明治の様相をご覧ください。



## 月岡芳年 新形三十六怪撰

展示期間 平成27年(2015)3月10日(火)～4月12日(日) 展示室1

月岡芳年は歌川国芳の門人で、浮世絵が終焉を迎える明治時代に活躍したことから、最後の浮世絵師といわれています。「新形三十六怪撰」は伝説や謡曲、歴史譚などから題材を得た古今の妖怪や幽霊を描いたシリーズで、明治22年(1889)から25年(1892)にかけて制作された芳年最晩年の代表作です。繊細な写実的表現がより静かな妖気を醸し出しています。今回は36図に目録を加えたシリーズ全作品を紹介します。



## Ⅱ > 1 > (3) 普通展示 東洋陶磁

### かたどられた人、動物、生活

展示期間 平成26年(2014)5月20日(火)～10月5日(日) 展示室2

やきものには器だけでなく、人や動物などをかたどったものもあります。これらは「陶俑」と呼ばれ、中国では紀元前の新石器時代にはみられ、古い時代から作られてきました。また、日本の古墳時代に作られた墓である古墳に並べられた埴輪もその仲間です。おもに墓で使われた点は共通しています。そのため、単にかたどったのではなく、当時の生活や慣習、さらには思想を表現しており、それを読みとくおもしろさをもっています。

着かざった馬や小さな動物、家や倉庫などの建物、つつましく立つ婦人やたくましい武人など、作品の見どころとそれらのもつ意味を紹介します。

### めでたいかたち—吉祥文—

展示期間 平成26年(2014)10月7日(火)～平成27年(2015)1月25日(日) 展示室2

やきものを飾る絵や文字は「文様」と呼ばれ、それぞれにいろいろな意味があります。なかでも、めでたい意味をもつものは人々に好まれています。このようなめでたい文様は「吉祥文」と呼ばれ、その歴史は中国では古代にまでさかのぼり、朝鮮や日本のやきものにも描かれました。日本ではなじみ深い鶴や亀、植物では牡丹や蓮などが吉祥文としてやきものを飾っています。長生不老、子孫繁栄など、人々のさまざまな願いがかたちとなった吉祥文のあるやきものとそれにまつわるお話を紹介します。

### 染付

展示期間 平成27年(2015)2月3日(火)～4月12日(日) 展示室2

白地に青色の文様が描かれたやきものを染付と言います。中国では青花と呼ばれ、その麗しさをあらわすようです。素焼きした素地に酸化コバルトを主成分とする顔料で文様を描き、その上に透明釉をかける釉下彩のひとつである染付は、中国・元時代後期(14世紀初頭)に景德鎮窯で開発され、その人気は東アジアだけでなくヨーロッパへも広がりました。青と白のシンプルな色彩でありながら多くの人々を魅了した染付の魅力を紹介いたします。

東洋陶磁展示 展示室2  
かたどられた人、動物、生活  
展示期間 平成26年5月20日(火)～10月5日(日)



やきものには器だけでなく、人や動物などをかたどったものもあります。これらは「陶俑」と呼ばれ、中国では紀元前の新石器時代にはみられ、古い時代から作られてきました。また、日本の古墳時代に作られた墓である古墳に並べられた埴輪もその仲間です。おもに墓で使われた点は共通しています。そのため、単にかたどったのではなく、当時の生活や慣習、さらには思想を表現しており、それを読みとくおもしろさをもっています。

着かざった馬や小さな動物、家や倉庫などの建物、つつましく立つ婦人やたくましい武人など、作品の見どころとそれらのもつ意味を紹介いたします。

東洋陶磁展示 展示室2  
めでたいかたち—吉祥文—  
展示期間 平成26年10月7日(火)～平成27年1月25日(日)



やきものを飾る絵や文字は「文様」と呼ばれ、それぞれにいろいろな意味があります。なかでも、めでたい意味をもつものは人々に好まれています。このようなめでたい文様は「吉祥文」と呼ばれ、その歴史は中国では古代にまでさかのぼり、朝鮮や日本のやきものにも描かれました。日本ではなじみ深い鶴や亀、植物では牡丹や蓮などが吉祥文としてやきものを飾っています。長生不老、子孫繁栄など、人々のさまざまな願いがかたちとなった吉祥文のあるやきものとそれにまつわるお話を紹介します。

東洋陶磁展示 展示室2  
染付  
展示期間 平成27年2月3日(火)～4月12日(日)



白地に青色の文様が描かれたやきものを染付と言います。中国では青花と呼ばれ、その麗しさをあらわすようです。素焼きした素地に酸化コバルトを主成分とする顔料で文様を描き、その上に透明釉をかける釉下彩のひとつである染付は、中国・元時代後期(14世紀初頭)に景德鎮窯で開発され、その人気は東アジアだけでなくヨーロッパへも広がりました。青と白のシンプルな色彩でありながら多くの人々を魅了した染付の魅力を紹介いたします。

## II > 2 > (3) 普通展示 陶芸 1

### 卑弥呼と愛 十二代三輪休雪の世界

展示期間 平成26年(2014)7月5日(土)～平成27年(2015)1月25日(日) 展示室7

十二代三輪休雪(1940年生まれ、本名龍作)は、1967年に《花子の優雅な生活》と題するハイヒールをかたどったオブジェ陶作品群を発表し、器形を重んじ茶陶に偏る旧来の陶芸観からいち早く脱却した個人作家です。以来、休雪はエロス(愛)とタナトス(死)をテーマに、既成概念を打ち破る斬新な造形思考と具象彫刻的な陶芸表現によって、人間存在の真実を問い続けてきました。

卑弥呼シリーズ四部作<sup>\*</sup>は、3世紀の倭国(日本)を統率したとされる邪馬台国女王をモチーフに、太古の女王にエロスの本質を望見したロマンティックな趣の連作群です。金色に映える塊や山脈、そして勝者の輝かしい戦果が記された史書といったかたちは、富と権力の隆盛ぶりを表しています。一方で、すすけた肌合いや深く刻まれた亀裂、散乱するがれきは、富と権力の風化や瓦解といった衰亡の過程です。そして、それらのかたちの中心には、エロスの象徴としての陰唇(女性器)がかたどられています。

個人の愛憎や生死また集団の興隆から衰退にいたる、人の世の栄枯盛衰に女王卑弥呼のイメージを重ねた作家は、生成なのか崩壊なのか分別のつかない錯乱の瞬間にすら、なおも妖しき輝きを放つ、たくましい根源的な生命力としてのエロスを賛美しているのです。

今回は、ハイヒールをかたどったフェティッシュなオブジェ陶のインスタレーション《愛の為に》とともに、十二代三輪休雪のエロスとタナトスをめぐる深く豊かな思想的表現の世界を紹介します。

※〈卑弥呼〉(1988年)、〈卑弥呼山〉(1990年)、〈卑弥呼の書〉(1991年)、〈続・卑弥呼の書〉(1992年)の各連作を、「卑弥呼シリーズ四部作」と呼んでいます。

### 素材のかたち

展示期間 平成27年(2015)2月3日(火)～8月16日(日) 展示室7

いちど焼結したやきもの(陶)が、もとの土に還ることはありません。それにもかかわらず、私たちは無釉の露胎部(いわゆる「土見せ」)のような陶質の粗相ばかりか、成形の痕跡や加飾また窯中で生じた変化や表情など、その制作工程における総ての成果のうちに、焼成される以前の土の面影を求め、「かたち」の成り立ちをたずねます。まるで、土という素材に喚起された作り手個人の生の感覚に自己の体験を重ね、「かたち」に生命の営みを想起こしたり深遠なる自然や悠久の時間を夢想したりする、密かな愉しみでもあるかのように。

今回は、素材(土)の物質性そのものを「かたち」の前面に押し出して、観る者をその背後に潜む思想や心象風景へと誘う、陶芸ならではの造形表現を十二代三輪休雪と三輪和彦の大型作品で紹介いたします。



## 2 > 1 > (3) 普通展示 陶芸2

### 萩焼の花器

展示期間 平成26年(2014)4月15日(火)～9月7日(日) 展示室8

わが国では古くから、野辺の花を器に生けて仏前や死者を荘厳する供花の習俗がありました。それが社会の変化とともに伸展し、室町時代には立花という室内芸能としてのいけばなへと高められていきました。花器とは、このようないけばなの美意識や芸術的な思想の深まりとともに造形的な発達を遂げた、金属や陶磁、木、竹、ガラスといった素材による花瓶・花入・花生・花立など、多種多様な花を飾るための器の総称です。

萩焼の花器は、江戸時代中期から幕末にかけていけばなの庶民層への拡がりにもなって普及し、明治時代以降も華道や茶道の隆盛を受けて大いに焼造されています。一方、社会の近代化とともにあらわれた表現としての陶芸をめざす個人作家たちは、居住空間の西欧化を意識したいけばな界の思想的変革とも呼応し、必ずしも用途に縛られない創作の対象として、花器というジャンルでの造形表現をめざすようになりました。

今回は、このような陶芸といけばなの近代性が切り結んだ、近現代の萩焼の花器を紹介いたします。伝統の素材と技術がみごとに活かされた造形表現をお楽しみください。



### 未来派の「縄文」茶陶―染野夫妻陶芸コレクション―

展示期間 平成26年(2014)9月9日(火)～平成27年(2015)1月25日(日) 展示室8

染野義信・啓子夫妻は、生前、民事訴訟法学と知的財産権法学の一大権威でした。その多忙な日々にも、近現代陶芸とりわけ茶陶をはじめとする美術品の収集に情熱を傾けられ、わが国高度経済成長期の陶芸史を語るうえで、非常に貴重なコレクションを形成されました。本県は、平成19(2007)年度にご遺族からその大半の作品の寄贈を受け、これまでさまざまな展示機会を通じて活用してきました。

染野夫妻は、「大波の荒れ狂う暗やみとしかみえない未来に、小舟を出すにひとしい仕事」に共感を覚え、同時代でも先駆的な制作をする作家たちの作品を収集しましたが、なかでも夫妻が注視したのは、作家の「自然」に対する洞察力とそのことで作品化される「生命」のプレゼンス(存在感)の強弱でした。これは、人間性の疎外が進む高度情報化社会の実情をもっともよく識る立場にいた、夫妻の「人間の原点への回帰」を願う心根から発した造形思考だったのでしょうか。そして夫妻は、かれらの目に適った「絶えず何かを破り、突き抜けていこうとする衝動を表している」作品を、「未来派の「縄文」茶陶」と呼んで賞賛しました。

今回は同コレクションの中核をなす茶陶に焦点をあて、コレクターの側面から創造的知性を発揮した染野夫妻の芸術観を、三輪壽雪、荒川豊藏、濱田庄司の作品で顧みます。



### 萩焼の時代

展示期間 平成27年(2015)2月3日(火)～6月14日(日) 展示室8

萩焼の歴史は、茶陶や細工物づくりにおいてつねに時代の先端を志向するという革新性の伝統を培ってきました。これは20世紀以降も、萩焼固有の素材と技術をよりどころとしながら、個性を追求する表現としての作陶活動に表れています。

産地の伝統を受け継ぎながら新たな芸術性を開拓しようとした、現代の陶芸家たちの作品を紹介いたします。



Ⅱ > 1 > (4) 特選鑑賞室展示

4月	歌川広重	名所江戸百景 堀切の花菖蒲	大判錦絵	
5月	歌川広重	名所江戸百景 駒形堂吾孀橋	大判錦絵	
6月	歌川広重	名所江戸百景 亀戸天神境内	大判錦絵	
7月	二代歌川広重	名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい	大判錦絵	
8月	歌川広重	名所江戸百景 両国花火	大判錦絵	
9月	歌川広重	名所江戸百景 猿わか町よるの景	大判錦絵	
10月	歌川広重	名所江戸百景 よし原日本堤	大判錦絵	
11月	歌川広重	名所江戸百景 浅草田甫酉の町詣	大判錦絵	
12月	歌川広重	名所江戸百景 深川洲崎十万坪	大判錦絵	
1月	歌川広重	名所江戸百景 日本橋雪晴	大判錦絵	
2月	歌川広重	名所江戸百景 廓中東雲	大判錦絵	
3月	歌川広重	名所江戸百景 隅田川水神の森真崎	大判錦絵	



## Ⅱ＞1＞(6) 貸館展示

### 第37回 山口伝統工芸展

主催 日本工芸会山口支部、日本工芸会、朝日新聞社、NHK山口放送局、y a b山口朝日放送  
後援 文化庁、山口県、山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会  
特別賛助会員 JAグループ山口

会期 4月10日(木)～4月20日(日)  
会場 本館2階第6, 5, 4, 3展示室

#### 関連行事

##### ○会員による列品解説

日時 4月12日(土)、13日(日)、19日(土)、20日(日) 14:00～



Ⅱ>2>(1) 記念講演会

回	日時	講師(敬称略)	所属・職	演題	聴講者数
1	6月6日(土) 13:30~15:00	荒川正明	学習院大学教授	伊万里染付大皿の魅力をたずねて	59
2	8月29日(土) 14:00~15:30	浅野秀剛	大和文華館館長 あべのハルカス美術館館長	立原位貫の浮世絵の復刻	55
3	10月10日(土) 13:30~15:00	唐澤昌宏	東京国立近代美術館 工芸課長	(記念鼎談)	79
		中島宏	陶芸家 重要無形文化財保持者(青磁)	青磁に魅せられて	
		高垣篤	陶芸家		
4	12月12日(土) 13:30~15:00	李娉	山東博物館書画部館員	明清服飾のはなやぎ-彩と繻のコスモロジー	37

第1回は、「図変り大皿の世界 伊万里染付の美展」記念講演会

第2回は、「木版画家 立原位貫展」記念講演会

第3回は、「青磁のいま展」記念鼎談

第4回は、「シリーズ山東文物 中華の服飾芸術展」記念講演会

## II >2>(2) やまぐち美術館力発信事業

### 美術館ウィークの開催

山口県立美術館(山口市)と山口県立萩美術館・浦上記念館の2つの県立美術館が所蔵する優れたコレクションの魅力を広く県民に紹介するとともに美術館に親しむきっかけ作りとして「日本の美・和」をコンセプトにコレクションを中心とする特別展示や地域と連携した関連イベントを実施。



### 陶芸ウィーク

特別展示「やきものって何ダ?」に併せて、当館の主要な収蔵品である陶芸をテーマに、やきものの魅力を再発見する講座や鑑賞・体験型ワークショップを開催。

開催期間 平成26年(2014)8月2日(土)~8月10日(日)

#### 1. 鑑賞体験

##### (1) タッチ&トーク(作品・資料に触れる作品鑑賞)

日 時 8月5日(火)、6日(水)、7日(木)、8日(金)  
14:00~15:00

場 所 講座室

対 象 一般

講 師 学芸員

参加者 57名

##### (2) 萩焼名窯ツアー(萩藩御用窯見学)

日 時 ①8月9日(土)10:00~12:00

②8月17日(日)10:00~12:00

※台風接近により8月10日(日)を17日(日)に変更

場 所 ①坂窯

②不走庵三輪窯

対 象 ①、②小中学生及び保護者

講 師 ①十三代坂高麗左衛門氏(陶芸家)

②三輪和彦氏(陶芸家)

参加者 ①9名、②18名

#### 2. 制作体験

##### (1) 墨流し技法をもちいたマーブル加飾体験

日 時 8月2日(土)10:00~12:00、14:00~16:00

場 所 陶芸館多目的室

対 象 一般

講 師 金子 司氏(陶芸家)

参加者 40名

(2)下絵付け体験

日 時 8月3日(日) 10:00~12:00、14:00~16:00

場 所 城山窯(萩市内)

対 象 一般

講 師 金子信彦氏(陶芸家)

参加者 26名

(3)ギャラリー・トーク(学芸員による展示解説)

①特別展示「やきものって何ダ?」

日 時 8月3日(日)、10日(日) 11:00~12:00

場 所 本館2階展示室

②普通展示「かたどられた人、動物、生活」

日 時 8月9日(土) 11:00~12:00

場 所 本館1階展示室1

講 師 ①,②学芸員

参加者 ①,②50名

3. やきものガイドブック「やきものって、なあに?」の発行

やきものの歴史、製作過程、生産地などをわかりやすく解説したリーフレットを発行。



Ⅱ>2>(3) 各種イベント

特別展示関連イベント

特別展示	イベントタイトル	開催日	会場	参加者数	内容
生誕130年 川瀬巴水展	版画の摺り実演	5月4日(日) ①10:00~12:00 ②13:30~15:30	エントランスホール	190人	渡邊木版美術画舗による摺りの実演と解説。 摺師：渡辺英次氏 解説：渡邊章一郎氏
	こどもの日イベント なつかしい遊びだよ。 全員集合!	5月5日(月・祝) 14:00~16:00	エントランスホール	122人	けん玉、こま、メンコ、おはじきなど懐かしい昔のおもちゃで遊ぶ。
やきものって何ダ?展	萩茶碗で愉しむ呈茶席	①7月5日(土) ②7月6日(日) 10:00~15:00	本館ロビー	73人	萩茶碗による呈茶席(表千家萩地区青年部)
上方の浮世 絵展	落語寄席 上方落語・絵画の世界	10月4日(土) 13:30~14:30	講座室	120人	上方落語家林家染雀氏による落語寄席
	月夜のナイトミュージアム	10月10日(金) ~10月12日(日) 18:30~20:00	本館2階展示室	101名	上方の浮世絵展の見どころを担当学芸員が解説。
泥象鈴木治 の世界展	ミュージアム・コンサート 「愛と自然を歌う」	11月1日(土) 17:00~18:30	喫茶hana	94名	声楽家有富美子氏のコンサート
	ミュージアム・カンパニー	11月14日(金) 18:30~20:00	本館2階展示室	24人	25歳以上の未婚者を対象とした、チャットスタイルの特別鑑賞会

指定管理者自主企画イベント

イベントタイトル	開催日	会場	参加者数	内容
ゴールデンウィーク美術館クイズ	5月3日(土) ~5月6日(火) 9:00~16:30	館内	910名	美術館クイズに正解すれば大浮世絵展チケットをプレゼント。
アート・フェスティバル2014	8月23日(土) 9:00~16:30	エントランスホールほか	585名	〈美術館まちなか交流促進事業〉 アートを活用した地域づくりや交流促進を目的とした地域密着型アートイベントを開催。 チェンソーアート実演、オカリナ演奏、缶バッチづくりなどのクラフト
月夜のナイトミュージアム(再掲)	10月10日(金) ~10月12日(日) 18:30~20:00	本館2階展示室	101名	上方の浮世絵展の見どころを担当学芸員が解説。
クイズで知る山口県立萩美術館・浦上記念館!	11月1日(土)~ 11月3日(月・祝)	館内	356名	美術館クイズに正解すれば美術館オリジナルグッズをプレゼント。
秋のミュージアムコンサート	11月9日(日) 15:00~16:00	エントランスホール	110名	県内を中心に演奏活動をしている“Beans”による県立美術館(山口市)との2館リレーコンサート。
石鯨ねんどでつくってみよう!	12月14日(日) 13:00~16:30	エントランスホール	41名	泥象鈴木治の世界展観覧後、紙粘土で作品制作 講師：鈴木啓二郎氏(現代美術家)
アート年賀状2015	1月2日(金)~ 1月25日(日)	エントランスホール	展示 128点	自由に表現された手作り年賀状(オリジナル部門とぬりえ部門)を一般公募

お正月は萩美術館・浦上記念館へ	1月2日(金)～ 1月4日(日)			
(1)お琴の演奏会	1月2日(金) 1月3日(日) ①11:00～11:40 ②14:00～14:40	エントランスホール	333名	箏好会(箏曲愛好会)の演奏会
(2)美術館で運だめし?!		エントランスホール		くじ引き
(3)お正月伝統遊び	1月2日(金)～ 1月4日(日)	エントランスホール		けん玉、福笑い、すごろくなど懐かしい遊びを体験
(4)新成人企画				新成人入館無料

## Ⅱ>2>(4) ギャラリー・トーク

### ギャラリー・トーク

普通展示の開催に合わせた担当学芸員による列品解説。

原則として、毎月の第2・4土曜日の11:00～12:00に実施

	実施日	区分	展覧会名称	担当者
1	4月12日	東洋陶磁	緑釉陶磁の歴史	市来真澄
2	4月26日	浮世絵	諸国名所風景画	湊田恵子
3	5月10日	陶芸	萩焼の花器	石崎泰之
4	5月24日	浮世絵	五十三次の世界	鈴木浩平
5	6月14日	東洋陶磁	かたどられた人、動物、生活	市来真澄
6	7月12日	陶芸	卑弥呼と愛 十二代三輪休雪の世界	石崎泰之
7	7月26日	浮世絵	美人画の大首絵	吉田洋子
8	8月 9日	東洋陶磁	かたどられた人、動物、生活	市来真澄
9	8月23日	浮世絵	妖怪絵	鈴木浩平
10	9月13日	浮世絵	後期浮世絵の美人画	吉田洋子
11	9月27日	陶芸	未来派の「縄文」茶陶-染野夫妻陶芸コレクション-	石崎泰之
12	10月11日	浮世絵	武者絵	湊田恵子
13	10月25日	東洋陶磁	めでたいかたち-吉祥文-	市来真澄
14	11月 8日	陶芸	卑弥呼と愛 十二代三輪休雪の世界	石崎泰之
15	11月22日	浮世絵	尾形月耕の美人画	湊田恵子
16	12月13日	陶芸	未来派の「縄文」茶陶-染野夫妻陶芸コレクション-	石崎泰之
17	12月27日	東洋陶磁	めでたいかたち-吉祥文-	市来真澄
18	1月10日	浮世絵	江戸の一年	鈴木浩平
19	1月24日	陶芸	卑弥呼と愛 十二代三輪休雪の世界	石崎泰之
20	2月14日	浮世絵	明治絵-文明開化の世界	湊田恵子
21	2月28日	東洋陶磁	染付	市来真澄
22	3月14日	浮世絵	月岡芳年-新形三十六怪撰	鈴木浩平
23	3月28日	陶芸	素材のかたち	石崎泰之

## Ⅱ>2>(5) 季刊誌「萩」

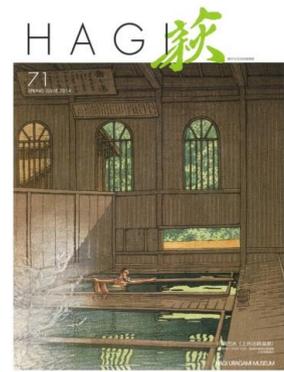
---

### No.71 (平成26年4月15日発行)

「渡邊版画店と新版画―川瀬巴水の魅力―」  
(株)渡邊木版美術画舗 代表取締役 渡邊章一郎

「生誕130年 川瀬巴水展―郷愁の日本風景」

「やきものって何ダ?―陶芸美術館8館の名品に学ぶ―」展  
普通展示のご案内  
特選鑑賞室案内  
平成26年度年間展示のご案内  
県立美術館メンバーズクラブ会員募集



### No.72 (平成26年7月15日発行)

「《そらみみそら―五月雨御殿―》に聞き耳を立てる、知覚する、そして今を感じる。」徳留大輔

「やきものって何ダ?展見所紹介!!」徳留大輔

「やきものって何ダ?―陶芸美術館8館の名品に学ぶ―」展

「上方の浮世絵―大坂・京都の粋と技―」展

「上方の浮世絵大解剖」 湊田恵子

「陶芸ウィーク」案内  
アート・フェスティバル2014案内



### No.73 (平成26年10月15日発行)

「鈴木治の「馬」」石崎泰之

「泥象 鈴木治の世界」展

普通展示 (浮世絵・東洋陶磁・陶芸) 案内  
「収蔵版画展」案内

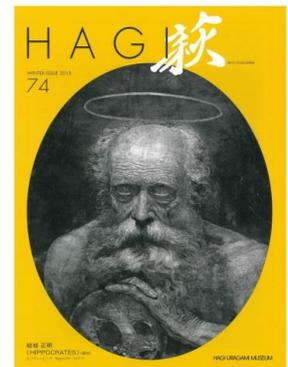


### No.74 (平成27年1月15日発行)

「新春企画 収蔵版画展」案内

普通展示 (浮世絵・東洋陶磁・陶芸) 案内

平成26年度 寄贈作品紹介



Ⅱ＞2＞(6) 博物館実習

期 間	人数	実習生の在籍校
8月4日～8月10日 (7日間)	1名	関西学院大学

Ⅱ > 3 館蔵品貸出利用状況

展覧会名称 薩摩伝承館特別展 大名茶の時代 薩摩と九州山口の茶陶展  
 展覧会開催館名 薩摩伝承館  
 貸出年月日 2014/6/20～2014/9/10  
 貸出先 薩摩伝承館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
不詳	萩花文割俵形鉢	1口	江戸前期	T00472
不詳	萩井戸形茶碗	1口	江戸前期	T00480
三輪雪山(8代)	萩編笠水指	1口	江戸	T00500
不詳	萩割高台茶碗	1口	江戸	T00484
不詳	萩三島写茶碗「椎葉」	1口	1684年	T00502

展覧会名称 山口県の工芸展  
 展覧会開催館名 山口県立美術館  
 貸出年月日 2014/4/11～2015/4/30  
 貸出先 山口県立美術館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
野坂康起	萩鉄灰被線文鉢	1口	1989年	K00332
大和保男	萩炎箔文陶管	1口	1979年	K00301
玉村登陽	萩茶碗	1口	1997年	K00333
波多野善蔵	萩窯変壺	1口	1977年	K00372
吉賀将夫	曜	1口	1985年	K00518
岡田裕	萩白釉窯変壺	1口	1988年	K00306
15代坂倉新兵衛	萩灰被朝顔文皿	1口	1991年	K00334
新庄貞嗣	萩灰被盒	1口	1996年	K00336
13代田原陶兵衛	萩灰被茶碗	1口	1996年	K00328
兼田昌尚	萩灰被割貫茶碗	1口	1995年	K00329

展覧会名称 山口県の無形文化財展  
 展覧会開催館名 山口県立美術館  
 貸出年月日 2014/4/11～2015/4/30  
 貸出先 山口県立美術館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
野坂康起	萩伊羅保茶碗	1口	1992年	K00321
大和保男	萩火彩扁壺	1口	1992年	K00316
波多野善蔵	萩緋色鉢	1口	2009年	K00517
岡田裕	火彩花器	1口	2008年	K00498
15代坂倉新兵衛	萩茶碗	1口	—	K00008

展覧会名称 古田織部四〇〇年忌 大織部展  
 展覧会開催館名 岐阜県現代陶芸美術館  
 貸出年月日 2014/8/25~2014/11/10  
 貸出先 岐阜県現代陶芸美術館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
不詳	萩割高台茶碗	1口	江戸前期	T00501
不詳	萩檜垣文筆洗形割高台茶碗	1口	江戸前期	T00473
不詳	萩割高台茶碗	1口	江戸	T00484
不詳	萩茶碗 銘 立田	1口	江戸	T00477

展覧会名称 企画展 三輪休和・壽雪兄弟と川喜田半泥子—山口県立萩美術館・浦上記念館  
 陶芸コレクションから—  
 展覧会開催館名 石水博物館  
 貸出年月日 2014/9/7~2014/11/20  
 貸出先 石水博物館

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
三輪休和	萩割高台茶碗	1口	1966年	K00108
三輪休和	萩筆洗切茶碗	1口	1973年	K00276
三輪休和	萩編笠水指	1口	1973年	K00274
三輪休和	鬼萩茶碗	1口	1942年頃	K00552
三輪休和	萩茶碗	1口	1967年	K00110
三輪休和	萩茶碗	1口	1974年頃	K00339
三輪休和	萩長寿楽置物	1口	1933年	K00308
三輪休和	白萩耳付花入	1口	1971年	K00313
三輪休和	白萩灰被花入	1口	1959年	K00345
三輪休和	萩茶入	1口	1975年	K00371
三輪休和	萩雀香合	1口	1964年頃	K00107
三輪休和	萩三島白釉鉢	1口	1962年頃	K00303
三輪休和	萩德利	1口	1967年	K00347
三輪休和	萩酒呑	1口	1976年	K00118
三輪休和	書「和風」	1葉	1966年	O00014
三輪壽雪	鬼萩花冠高台茶碗 銘 命の開花	1口	2003年	K00161
三輪壽雪	紅萩菱形水指 銘 花篝	1口	1969年	K00133
三輪壽雪	白萩手桶花入	1口	1965年	K00363
三輪壽雪	白萩茶碗 銘 雲間ノ月	1口	1967年	K00129
三輪壽雪	紅萩茶碗 銘 豊旗雲	1口	1968年	K00130
三輪壽雪	萩茶碗 銘 獅子	1口	1972年	K00138
三輪壽雪	鬼萩割高台茶碗	1口	1987年	K00302
三輪壽雪	鬼萩割高台茶碗 銘 大磐石	1口	1995年	K00150
三輪壽雪	白萩灰被水指	1口	1984年	K00490
三輪壽雪	白萩水指	1口	1981年	K00296
三輪壽雪	萩面取花入	1口	1966年	K00128
三輪壽雪	白萩灰被花入 銘 猛虎	1口	1997年	K00151

生産窯/作家名	作 品 名	員数	時代/制作年	館蔵品番号
三輪壽雪	萩平皿	1口	1968年	K00131
三輪壽雪	萩徳利	1口	1966年	K00127
三輪壽雪	萩盃	1口	1966年	K00126

展覧会名称 没後100年小林清親展  
 展覧会開催館名 静岡県立美術館、練馬区立美術館  
 貸出年月日 2015/1/15～2015/5/31  
 貸出先 静岡県立美術館、練馬区立美術館

作 家 名	作 品 名	員数・判型	館蔵品番号
小林清親	平忠盛御堂法師を捕る図	大判3枚続	U01249
小林清親	今戸の月	大判1枚	U01250
小林清親	明智左馬之助光春湖水乗打唐崎松之図	大判3枚続	U01254
小林清親	木内荘吾渡し場之図	大判3枚続	U01257
小林清親	武蔵百景之内 池上本門寺	大判1枚	U02355
小林清親	武蔵百景之内 江戸見坂	大判1枚	U02356
小林清親	武蔵百景之内 谷中団子坂菊	大判1枚	U02359
小林清親	武蔵百景之内 王子滝の川	大判1枚	U02364
小林清親	武蔵百景之内 芝増上寺雪中	大判1枚	U02365
小林清親	武蔵百景之内 深川ふゆぎ弁天	大判1枚	U02366
小林清親	日本名勝図会 嵐山	大判1枚	U02373
小林清親	日本名勝図会 巖島	大判1枚	U02375
小林清親	柿に目白	大判1枚	U02553
小林清親	鶏にトンボ	大判1枚	U02554
小林清親	梅若神社	大判1枚	U02555
小林清親	久松町二而見る出火	大判1枚	U02557
小林清親	東京江戸橋之真景	大判3枚続	U04564
小林清親	両国大火浅草橋	大判1枚	U05229
小林清親	浜町より写両国大火	大判1枚	U05330
小林清親	東京五大橋之一 両国真景	大判3枚続	U05331

Ⅱ > 4 寄贈作品

〔浮世絵・近現代版画〕

	作者名	作品名	判型	形態	点数	寄贈者	館藏品番号
1	未詳	浮世絵画卷 画稿(屋形船・吉原大門)		墨・紙	1	浦上敏朗	U05511
2	鱒崎英朋	文芸倶楽部新年附録 當世をんな雙六		印刷	1	浦上敏朗	U05512
3	水野年方	『文芸倶楽部』第3巻8編「佳人看菖蒲」		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05513
4	水野年方	『文芸倶楽部』第7巻13号「寂光院」三宅青軒		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05514
5	水野年方	『文芸倶楽部』第1巻11編「鰻旦那」山田美妙		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05515
6	三島蕉窓	「秋の夕ぐれ」福地桜痴、春陽堂		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05516
7	水野年方	『文芸倶楽部』第3巻3編「簾影美人」		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05517
8	鈴木華邨	『文芸倶楽部』第14巻9号「屋形船」		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05518
9	竹内桂舟	「浮木丸」尾崎紅葉		木版・口絵	1	浦上敏朗	U05519
10	立原位貫	創作版画「金魚の花見」	団扇絵判	錦絵	1	浦上敏朗	U05520

〔陶芸〕

	作品名	点数	制作者名	製作年代元号	寄贈者	館藏品番号
1	縫器	1	佐藤典克	平成25(2013)年	現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ実行委員会	K00558
2	青白磁面取鉢「峰」	1	鬼丸尚幸	平成25(2013)年	鬼丸尚幸	K00559
3	吹泥金彩線文十角器	1	清水一二	平成25(2013)年	清水一二	K00560

Ⅱ > 5 購入作品

〔浮世絵・近現代版画〕

	作者名	作品名	判型	形態	点数	館蔵品番号
1	井上安治	東京真画名所図解 本所富士見の渡し	四つ切判	錦絵	1	U05479
2	井上安治	東京真画名所図解 待乳山夕景	四つ切判	錦絵	1	U05480
3	井上安治	東京真画名所図解 鎧橋之景	四つ切判	錦絵	1	U05481
4	井上安治	東京真画名所図解 三ツ又永代	四つ切判	錦絵	1	U05482
5	井上安治	東京真画名所図解 萬年橋ヨリ大橋	四つ切判	錦絵	1	U05483
6	井上安治	東京真画名所図解 久松町千歳座	四つ切判	錦絵	1	U05484
7	井上安治	東京真画名所図解 本所枕橋ツメ	四つ切判	錦絵	1	U05485
8	井上安治	東京真画名所図解 小梅	四つ切判	錦絵	1	U05486
9	井上安治	東京真画名所図解 赤坂紀伊國坂	四つ切判	錦絵	1	U05487
10	二代鳥居清倍	女なるかみ 瀬川菊之丞 さいとう五 初代尾上菊五郎	細判	紅摺絵	1	U05488
11	鳥居清経	さくらひめ 四代目岩井半四郎	細判	紅摺絵	1	U05489
12	鳥居清満	村雨 中村松江	細判	紅摺絵	1	U05490
13	鳥居清満	嶋むら弾正左衛門 中村助五郎、渡辺民部 大谷広治	細判	紅摺絵	1	U05491
14	鳥居清満	おすぎ 瀬川菊之丞、舟やど忠右衛門 大谷広治	細判	紅摺絵	1	U05492
15	鳥居清満	小山田太郎妹おわた 瀬川菊之丞	細判	紅摺絵	1	U05493
16	鳥居清経	あしかがたか氏 沢村宗十郎、かうどうの内子 山下半太夫	細判	紅摺絵	1	U05494
17	鳥居清経	うづらのせい 瀬川菊之丞	細判	紅摺絵	1	U05495
18	鳥居清経	工藤左衛門祐経 松本幸四郎	細判	紅摺絵	1	U05496
19	北尾重政	おだまき姫 尾上松助	細判	紅摺絵	1	U05497
20	北尾重政	美女御前 尾上松助	細判	紅摺絵	1	U05498
21	北尾重政	ひたちの小はぎ 尾上菊五郎	細判	紅摺絵	1	U05499
22	勝川春章	二代目市川門之助の曾我五郎	細判	錦絵	1	U05500
23	勝川春英	二代目市川門之助	細判	錦絵	1	U05501
24	勝川春英	三代目市川高麗蔵	細判	錦絵	1	U05502
25	勝川春英	四代目岩井半四郎	細判	錦絵	1	U05503
26	勝川春泉	二代目市川門之助	細判	錦絵	1	U05504
27	勝川春常	三代目澤村宗十郎	細判	錦絵	1	U05505
28	勝川春好	二代目嵐三五郎	細判	錦絵	1	U05506
29	勝川春好	三代目菊之丞、三代目高麗蔵	細判	錦絵	1	U05507
30	勝川春好	中村仲蔵、三代目菊之丞	細判	錦絵	1	U05508
31	勝川春好	尾上松助カ	細判	錦絵	1	U05509
32	勝川春好	三代目澤村宗十郎	細判	錦絵	1	U05510

〔東洋陶磁〕

	作品名	点数	生産地域	時代区分	館蔵品番号
1	色絵梅竹文大皿	1	日本	江戸時代	T00561

### Ⅲ 入館者数

No	展 覧 会 名	入館者	日数	平均	実 施 期 間
1	第37回山口伝統工芸展 (貸館)	1,092	10	109	H26.04.10 ~ 04.20
2	生誕130年 川瀬巴水展 —郷愁の日本風景—	9,504	40	237	H26.04.26 ~ 06.08
3	やきものって何ダ？ —陶芸美術館8館の名品に学ぶ—	4,941	45	109	H26.07.05 ~ 08.24
4	上方の浮世絵 —大坂・京都の粋と技—	5,728	33	173	H26.09.09 ~ 10.13
5	泥象 鈴木治の世界 —〈使う陶〉から〈観る陶〉、そして〈詠む陶〉へ—	2,612	48	54	H26.11.01 ~ 12.23
6	普通展示	23,933	304	78	H26.04.01 ~ H27.03.31
7	各種イベント	1,867	26	71	H26.04.01 ~ H27.03.31
	合計	49,677			

### Ⅳ 組織

名誉館長	浦上敏朗
館長	二井関成
学芸顧問	上田秀夫
〃	鈴木浩平
副館長	藤崎三紀夫
学芸専門監	石崎泰之
主査	大谷純一郎
(兼)学芸課長	石崎泰之
主任	吉田洋子
主任	徳留大輔
専門学芸員	市来真澄
学芸員	淵田恵子